

SRC 自主調査の調査結果について

2024年 能登半島地震発生当日の帰省者・旅行者アンケート

この度の能登半島地震による災害に際しまして、謹んでお見舞い申し上げます。

株式会社サーベイリサーチセンターは、東北大学災害科学国際研究所の佐藤翔輔准教授らと標題の共同調査を実施しましたのでその概要を公表いたします。

この調査は、2024年1月1日に発生した能登半島地震の社会的な特徴のひとつと言える元日の発災に注目し、同日に石川県・富山県・新潟県に帰省や旅行をしていた人を対象としたものです。

今後の防災等に関する諸施策や研究、学びなどに役立てて頂ければ幸いです。

株式会社サーベイリサーチセンター

SRC情報総研

東北大学 災害科学国際研究所

准教授 佐藤翔輔，教授 今村文彦

※本調査は、株式会社サーベイリサーチセンターと東北大学災害科学国際研究所の共同調査です。
調査結果の引用等にあたっては、事前に当社にご連絡頂いた上で、以下を明記して利用してください。

例 株式会社サーベイリサーチセンター
東北大学災害科学国際研究所の共同調査（2024年3月）による

■調査実施の概要

調査対象者：東京都区内、名古屋市、大阪市に居住する20歳以上男女モニターのうち

2024年1月1日に石川県・富山県・新潟県に帰省や旅行をしていた人

調査方法：インターネット調査（インターネットリサーチモニターに対するクローズド調査）

調査数：966件

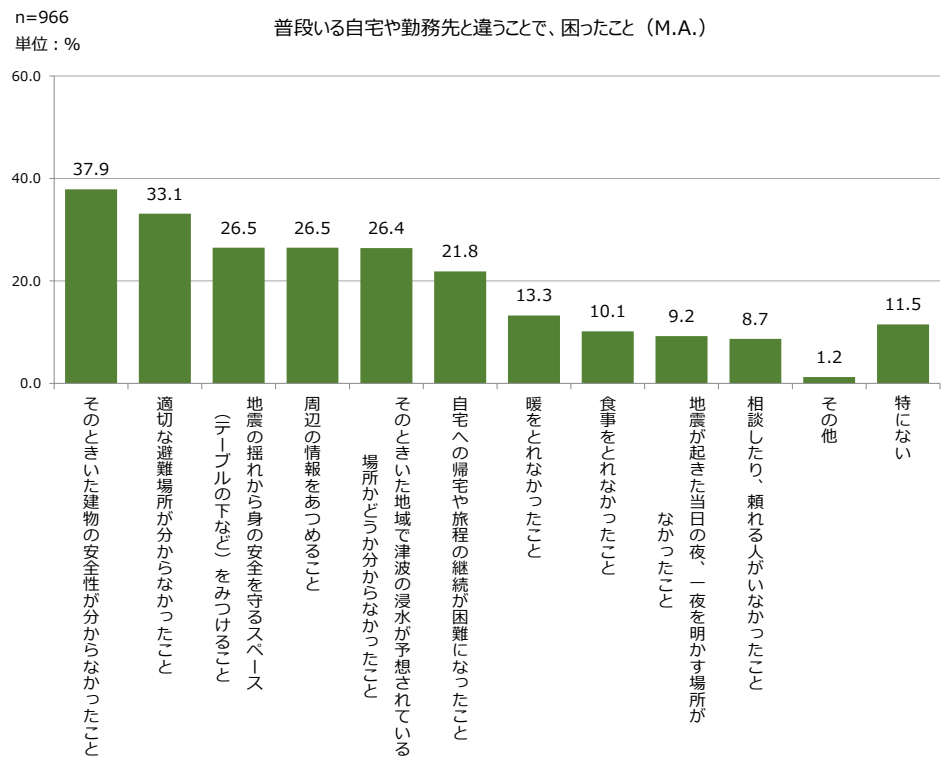
調査期間：2024年3月21日（木）～2024年3月27日（水）

■調査結果の特徴

- 普段いる場所（自宅・職場など）と違うために困ったことについて「そのときいた建物の安全性が分からなかったこと」（37.9%）や「適切な避難場所が分からなかったこと」（33.1%）との回答が多かった
- 津波に関する警報を見聞きした人は81.5%で主な情報源は「テレビ」（65.9%）であった
- 津波に関する警報により約8割がある程度以上の危険を感じ、津波浸水想定域にいたと回答した人では、その値は約94%となる
- 発災時に「いた建物以外に避難した」29.1%、「建物内の安全と思われる場所に避難した」35.4%を含めると避難率は64.5%だった。津波浸水想定域にいたと回答した人では、9割以上が避難行動をとっている
- 避難しなかった理由は「そのときいた場所が安全だと思ったから」が49.4%と最も多く次いで「大きな津波は来ないと思ったから」が35.9%だった
- 宿泊施設において、予めチェックイン時の非常口や避難路などの確認は「施設側から説明があった」との回答が55.1%、自身で確認した人が35.4%だった
- 宿泊施設において、地震発生後の避難に関する説明や誘導は、「あった」が75.0%、「なかった」が25%だった

■ポイント1 普段いる場所（自宅・職場など）と違うことで困ったことは何か？

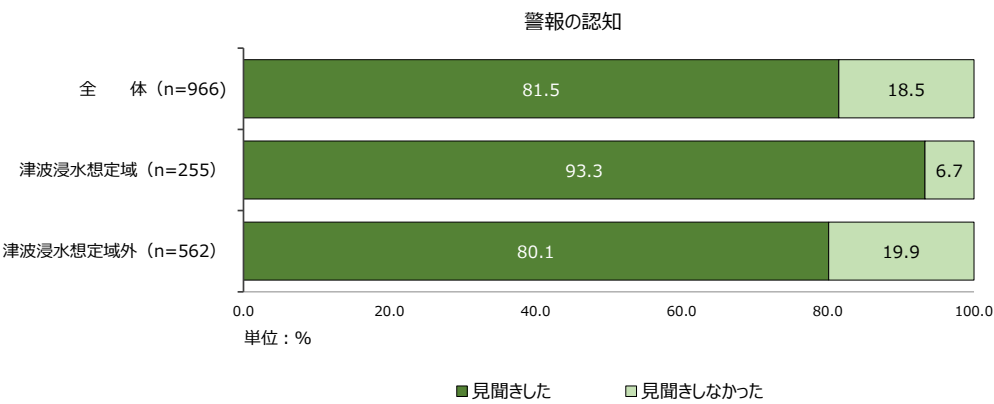
- 「そのときいた建物の安全性が分からなかったこと」（37.9%）
- 次いで「適切な避難場所が分からなかったこと」（33.1%）



■ポイント2 津波に関する警報は聞いていた？

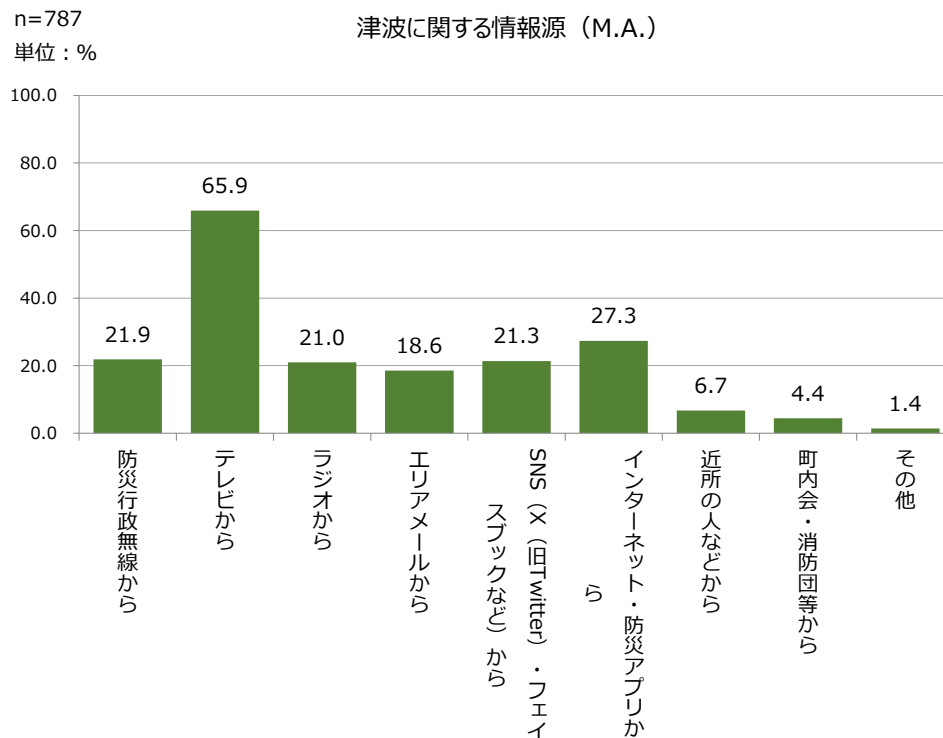
（1）警報の認知

- 「見聞きした」が8割以上（81.5%）
- 津波想定浸水域にいたと回答した人の認知率は93.3%



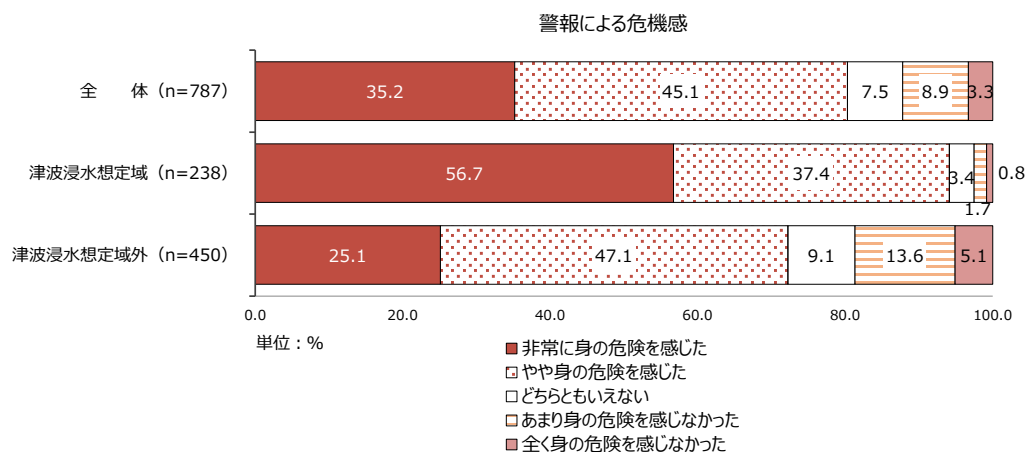
(2) 津波に関する情報源

- 津波に関する情報の入手先「テレビ」が65.9%と特に多い
- それ以外の情報源は2割前後が多く、人からの直接的な情報は数%程度と少ない



(3) 警報による危機感

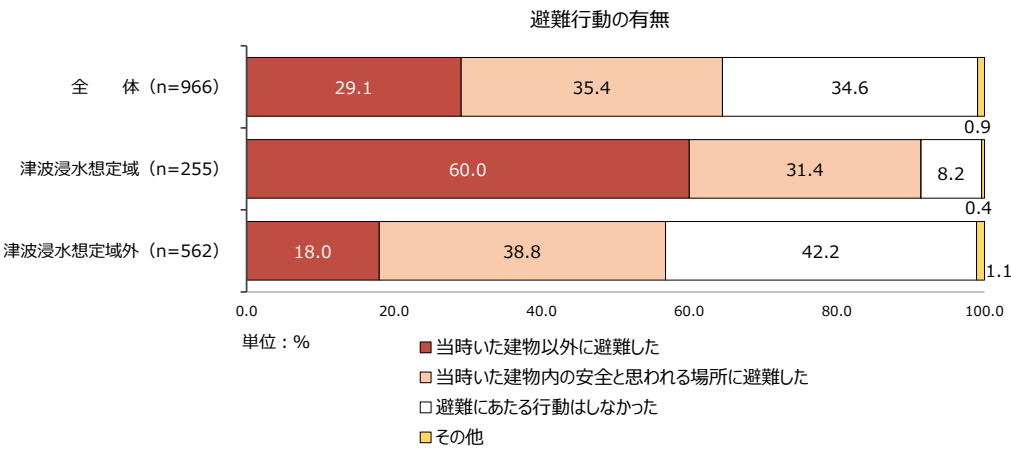
- 大津波警報または津波警報による危機感は、「非常に身の危険を感じた (35.2%)」と「やや身の危険を感じた」(45.1%)を合わせて約8割の人がある程度以上の危険を感じていた
- 津波浸水想定域にいたと回答した人では「非常に危険を感じた」は56.7%と多く、約94%の人がある程度以上の危険を感じていた



ポイント3 避難行動はどうだったか？

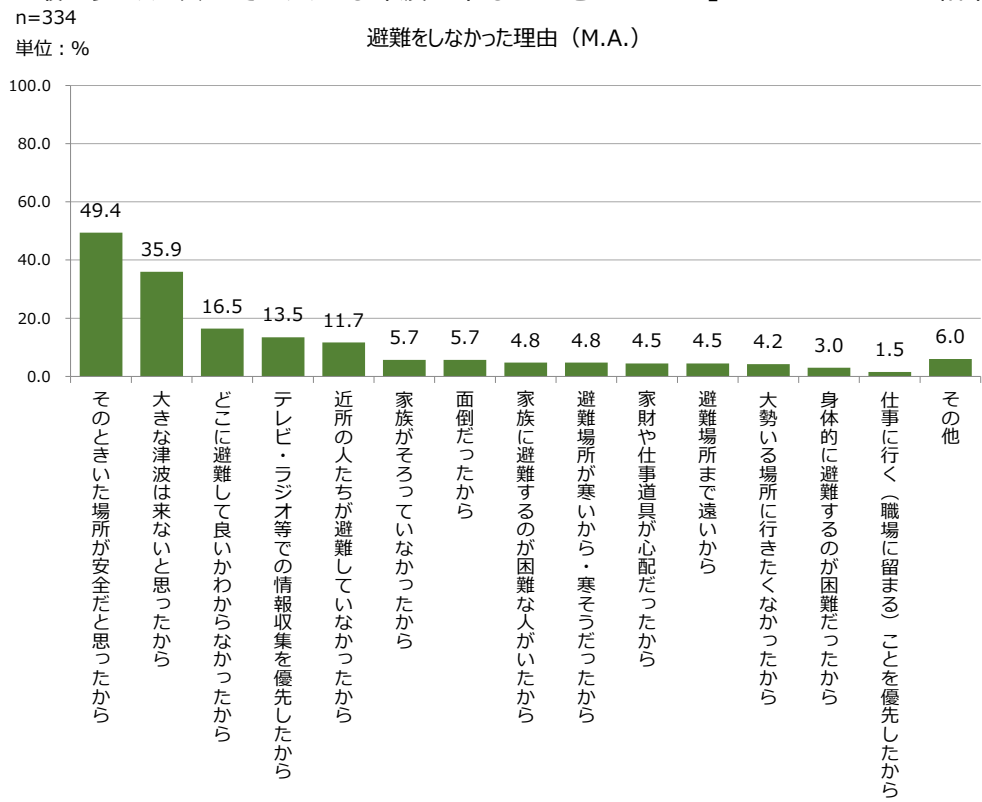
(1) 避難行動の有無

- 発災時に「いた建物以外に避難した」人は29.1%で、「建物内の安全と思われる場所に避難した」人（35.4%）を含めると避難率は64.5%だった
- 津波想定浸水域にいたと回答した人では、発災時に「いた建物以外に避難した」人は60.0%まで上がり、「建物内の安全と思われる場所に避難した」人を含め9割以上が避難行動をとっているが、8.2%の人は、津波想定浸水域にいながらも「避難にあたる行動はしなかった」と答えている



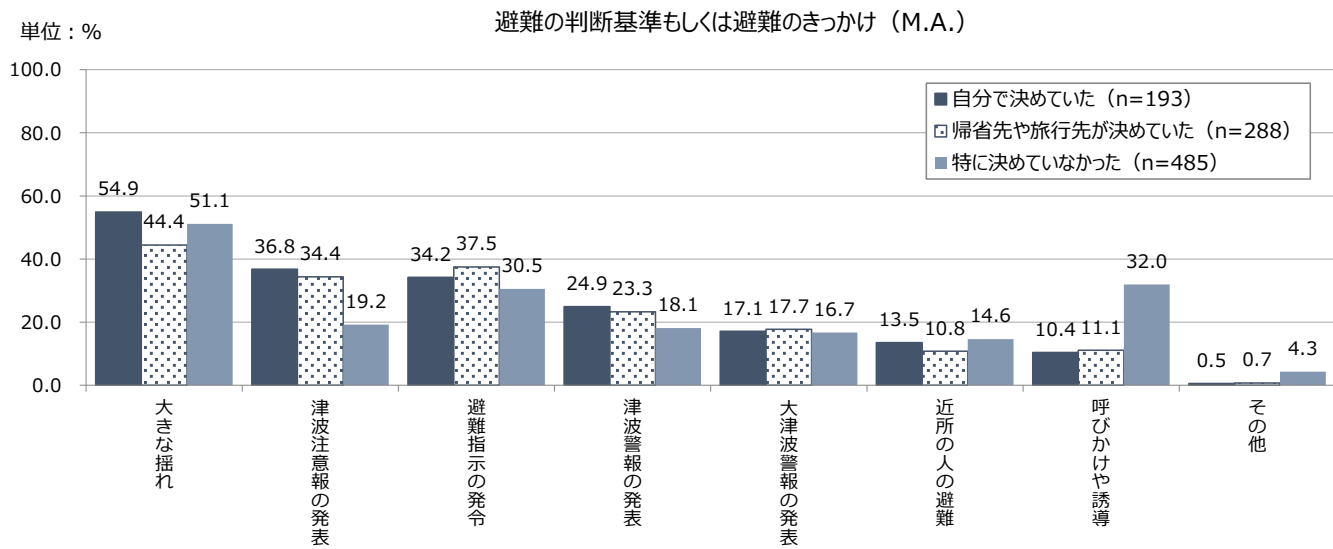
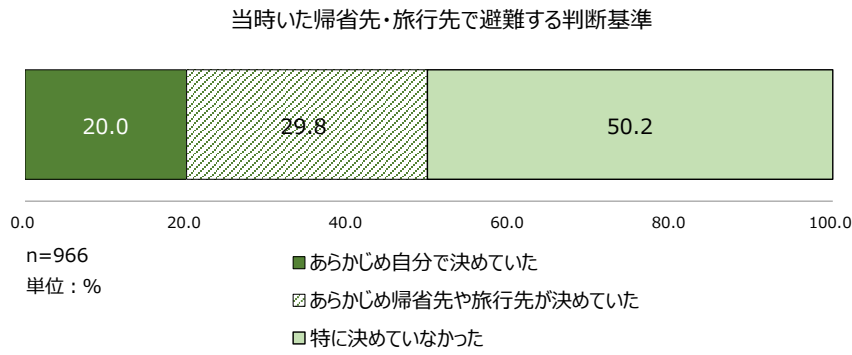
(2) 避難をしなかった理由

- 避難しなかった人にその理由をたずねたところ、「そのときいた場所が安全だと思ったから」が49.4%と最も多く、次いで「大きな津波は来ないと思ったから」が35.9%という結果だった



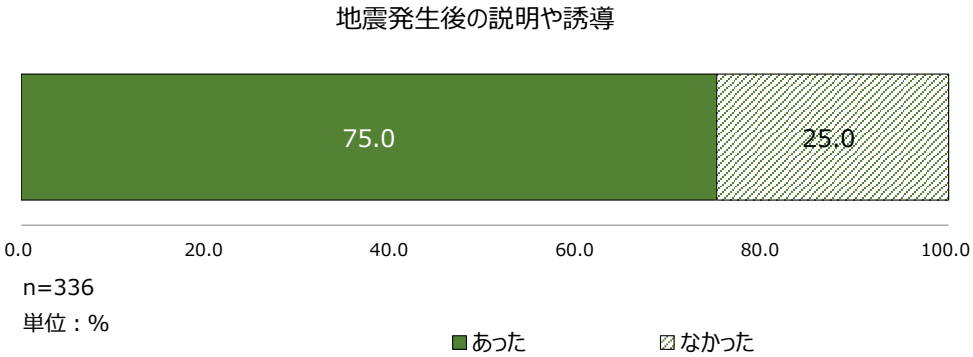
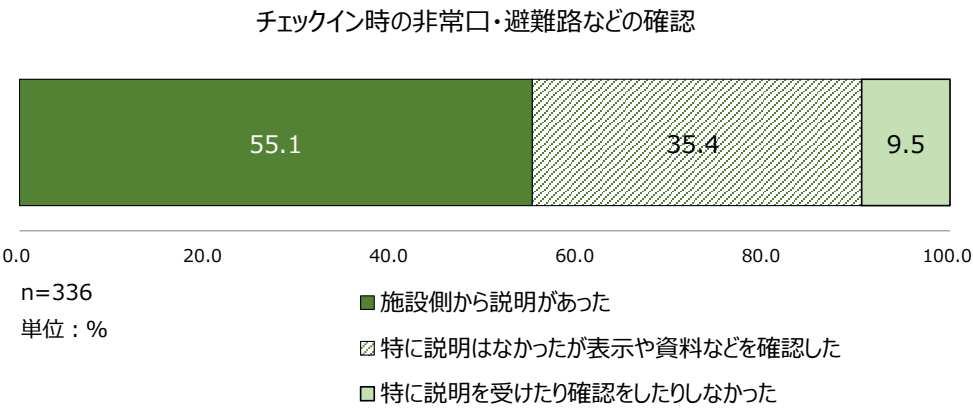
ポイント4 避難の判断基準・きっかけは？

- 発災当時、避難する判断基準を自分自身で持っていたのか、持っていなかったのか、帰省先や旅行者が決めていたのかについてたずねたところ、「特に決めていなかった」が50.2%と最も多く、「あらかじめ帰省先や旅行先が決めていた」が29.8%、「あらかじめ自分で決めていた」が20.0%だった
- また、決めていた判断基準、もしくは実際に避難した際のきっかけについてたずねたところ、全体のおよそ半数が「大きな揺れ」と回答し、以下各種警報が挙げられているが、特に決めていなかった人では「呼びかけや誘導」に促されたことがきっかけとなったとする回答が32.0%と多くなっている



■ポイント5 宿泊施設での旅行者への説明や誘導の状況は？

- 予めチェックイン時の非常口や避難路などの確認は、「施設側から説明があった」との回答が55.1%、「特に説明はなかったが表示や資料などを確認した」人が35.4%、「特に説明を受けたり確認をしたりしなかった」人が9.5%という結果だった
- 地震発生後の避難に関する説明や誘導については、「あった」が75.0%で、25.0%は「なかった」と回答している

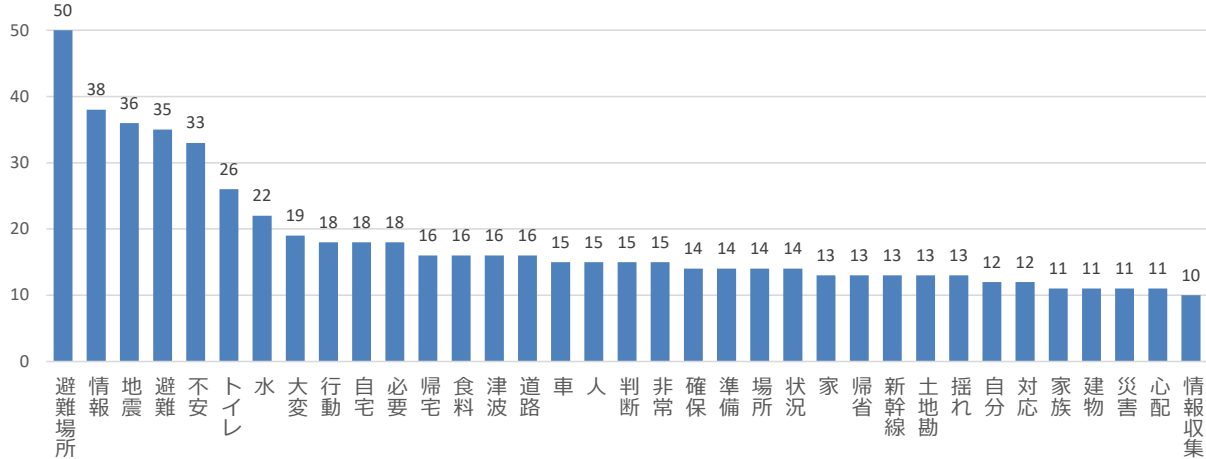


ポイント6 自由記述内容の整理

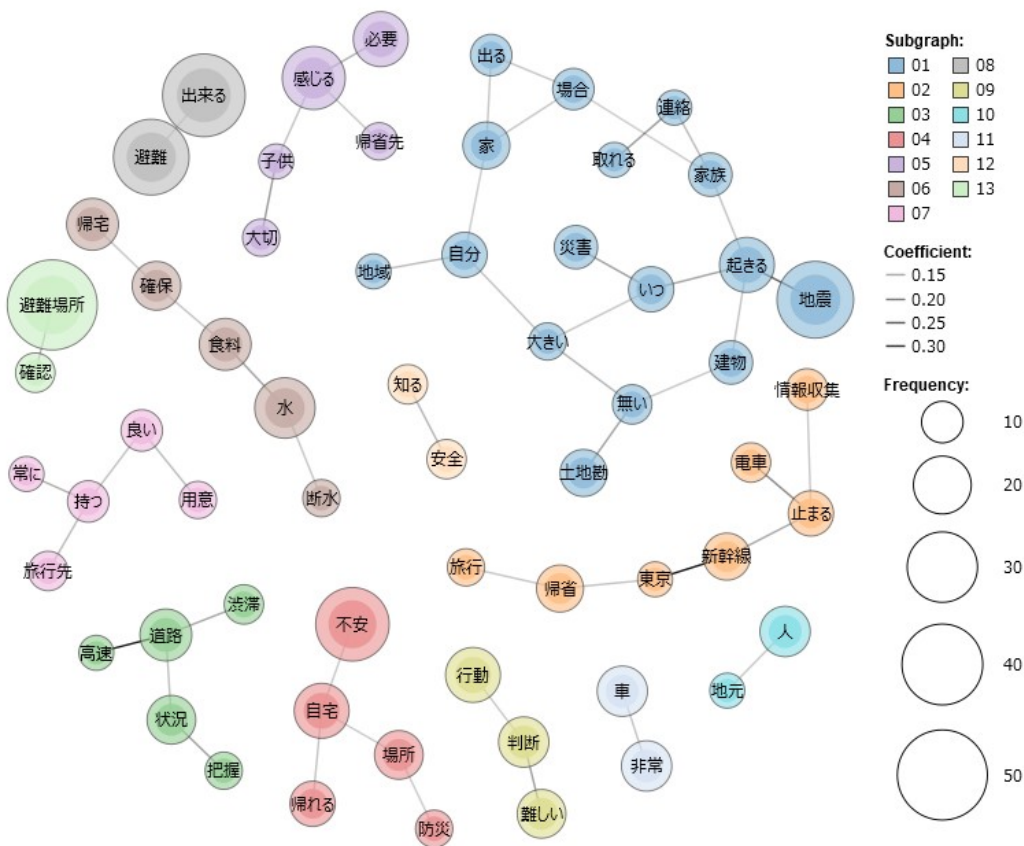
アンケートでは「今回、帰省や旅行の往訪先で大きな地震を経験したことで、困ったことや気づいたことなどがあればご自由にお書きください」と具体的に意見等を求めた。

意見の概観をとらえる上でテキストマイニングを行い、①頻出語の出現数、②共起ネットワークによる語句の関連性をみると以下のとおりであった。

意見に含まれる頻出語の出現数



共起ネットワークによる意見の概観



前ページの概観に沿って、関連コメントを確認した上で以下に要旨をまとめる。

（１）頻出語上位の「避難場所（避難）・地震・情報・不安」について

- 旅行者が慣れない地域で土地勘がない上に基本的な情報がないために、避難場所がわからなかったという意見が多かった
- 帰省者であっても、実家での情報不足や行き違いなどの混乱があり、自分がどれくらい危険な状態か、どこに避難すれば良いか等の判断がうまく行えなかった
- 旅行や帰省中に地震が起きることは想定しづらく、実際に起きると不安やパニックにつながりやすいことが示されており、経験を踏まえていかなる時にも準備や心構えが必要との意見もみられた
- 避難場所のみならず、災害時の対応に必要な情報が全般的に不足していた
- 情報を得ても、その信頼性や情報の錯綜などで判断に迷ったり、不安に陥った
- 頻出語の下位項目に含まれる「情報収集」も合わせて、携帯電話（スマホ）がつながりにくく情報入手が困難だったケースや、反対にスマホによるネット情報、SNSからの情報が役立ったとの意見もあった

（２）避難中の生活課題「トイレ・水・食料など」について

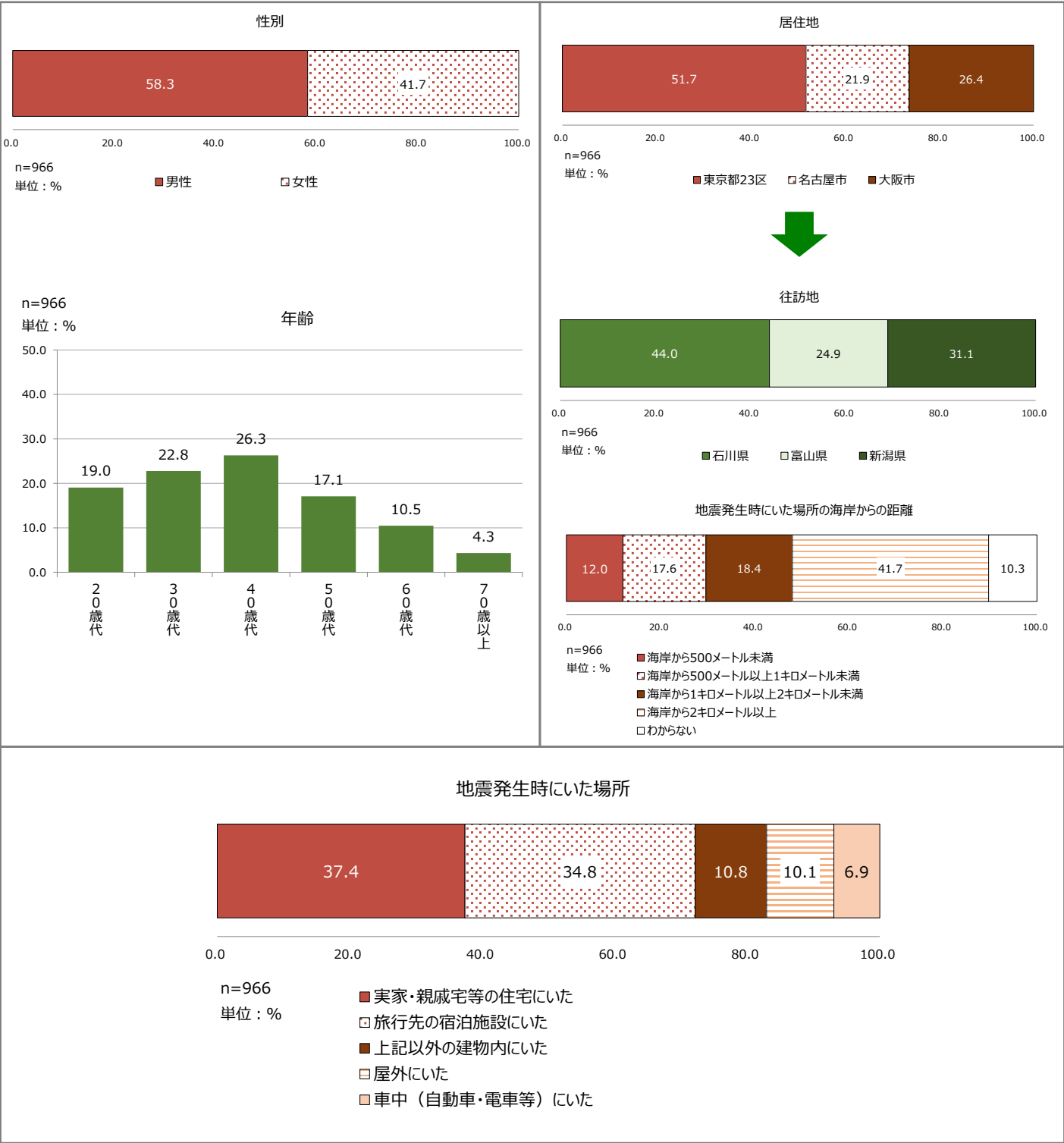
- 旅行者等に限らず災害時の大きな課題ではあるが、トイレの利用、水や食料の確保に困ったという意見は多い。車での旅行者は、そのまま域外移動という避難状態になることも多く、渋滞や立ち寄り先でトイレが使用できないなどの状況もあった。帰省者も実家が無事だった場合と避難を要する場合で状況は大きく異なっている
- 居住地域の災害で自宅からの避難であっても物資が不足する状況下で、旅行や帰省の場合は、あらゆる生活用品を旅行日数分程度しか持たないため、すぐに困った状態になる

（３）「道路や鉄道」の状況について

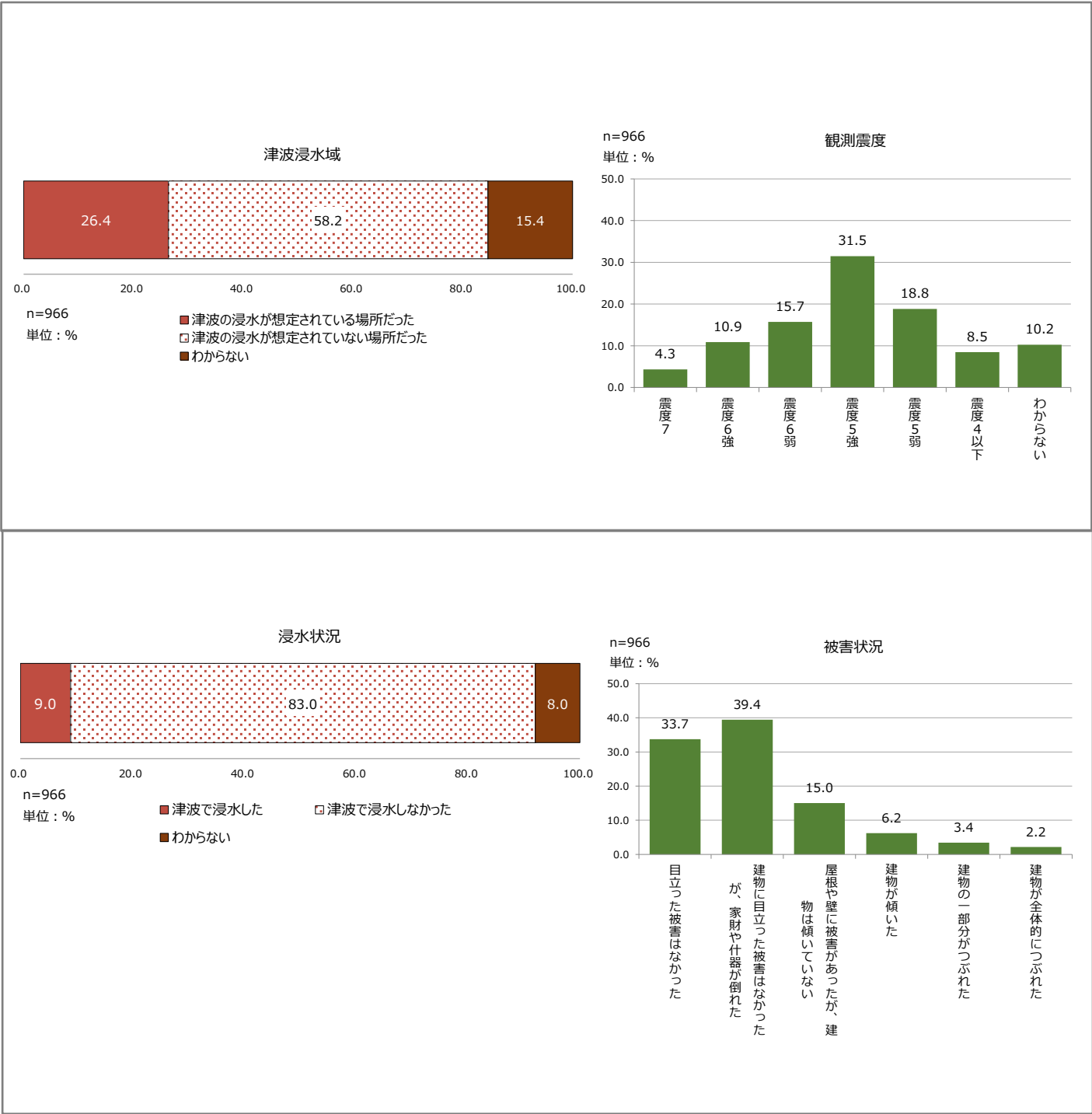
- いずれも上記（１）の「情報」とも大きく関わるが、旅行先・帰省先から自宅に帰るためには通行可能な道路、渋滞の状況、鉄道の運行状況、復旧の見込みなどの情報が必要であり、これらが得られないと意思決定ができない
- 地震の発生時に車で旅行移動中の場合は、早速大規模な渋滞に巻き込まれていたり、公共交通機関に乗車中だったり、公共交通機関に乗車待ちの人もいるので、乗り物の中や駅などでの足止めも発生している
- 移動手段が無くなり帰宅の目途が立たない状況で、自分の自宅の状況や仕事などの心配ごとを抱えつつ、情報収集や水・食料の手配などに困っていた様子もみられる
- 車で移動中だった回答者からは、自動車にも非常時の最低限の生活用品（非常時持ち出し品）を備えるべきかとの意見もみられた。特に乳幼児を連れている場合など、限られた物資で不便を強いられる状況もあったようだ

■ポイント7 回答者のプロフィールと被災状況の概要

➤ 冒頭に記したとおり、本調査は、東京都区内、名古屋市、大阪市に居住する20歳以上男女のインターネットリサーチモニターに対して、2024年1月1日に、石川県・富山県・新潟県に帰省や旅行をしていた人を事前調査でスクリーニングした上で、本調査に回答して頂いた。回答者のプロフィールは以下のとおりである



- 発災時にいた場所が津波浸水域だったとの回答者は26.4%
- その場所が津波により浸水したとの回答は9.0%
- 被害状況は、「建物に目立った被害はなかったが、家財や什器が倒れた」が39.4%と最も多く、次いで「目立った被害はなかった」（33.7%）となっている



■サーベイリサーチセンター 会社概要

- 会社名 : 株式会社サーベイリサーチセンター
- 所在地 : 東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号
- 設立 : 1975年年2月
- 資本金 : 6,000万円
- 年商 : 102億円 (2023年度)
- 代表者 : 代表取締役 藤澤 士朗、長尾 健、石川 俊之
- 社員数 : 社員334名、契約スタッフ497名 (2024年2月1日現在)
- 事業所 : 東京 (本社)、札幌、盛岡、仙台、新潟、静岡、名古屋、大阪、岡山、広島、高松、福岡、熊本、那覇
- 主要事業 : 世論調査・行政計画策定支援、都市・交通計画調査、マーケティング・リサーチ
- 所属団体 : 公益財団法人 日本世論調査協会
一般社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会 (JMRA)
日本災害情報学会
一般社団法人 交通工学研究会 他
- その他 : ISO9001認証取得 (2000年6月)
プライバシーマーク付与認定 (2000年12月)
ISO20252認証取得 (2010年10月)
ISO27001認証取得 (2015年11月) ※

※認証区分及び認証範囲:

- ・MR部及びGMR部が実施するインターネットリサーチサービスの企画及び提供
- ・全国ネットワーク部及び沖縄事務所が実施する世論・市場調査サービスの企画及び提供

■本件に関するお問合せ先

株式会社サーベイリサーチセンター <https://www.surece.co.jp/>

- 広報担当 : 松下 正人 E-mail : src_support@surece.co.jp
品質部
TEL : 03-3802-6779 FAX : 03-3802-6729
- 調査担当 : 岩崎 雅宏 E-mail : iwa_m@surece.co.jp
営業企画本部
TEL : 03-3802-6727 FAX : 03-3802-7321
- 本調査は、株式会社サーベイリサーチセンターと東北大学災害科学国際研究所の共同調査です
調査結果の引用等にあたっては、事前に当社にご連絡頂いた上で、以下を明記して利用してください

**例 株式会社サーベイリサーチセンター
東北大学災害科学国際研究所の共同調査 (2024年3月) による**

- 調査結果の無断転載・複製を禁じます
- 本紙に記載している情報は、発表日時点のものです